

会 議 録

会議の名称及び会議の回	令和5年度 飯田市社会教育委員会議 第1回定例会
開催日時	令和5年5月26日(金)午後3時00分～5時00分
開催場所	飯田市美術博物館 講堂
出席委員氏名(敬称略)	今村幸子、今村光利、竹内稔、田添莊文、筒井良二、永井祐子、 中村由美子、長谷部智子、平田睦美、三浦宏子
出席事務局職員	熊谷教育長、秦野次長、福澤学校教育課長、今井学校教育専門幹、 伊藤生涯学習・スポーツ課長、宮下文化財保護活用課長兼考古博物 館館長、牧内歴史研究所副所長兼美術博物館副館長、上沼公民館 副館長、木村文化会館事業係長、瀧本中央図書館長、本島生涯学 習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長、氏原生涯学習・スポーツ課長 補佐兼スポーツ振興係長、矢澤主事、樋口主事、片桐教育支援指導 主事、賜教育支援指導主事
会議の概要	以下のとおり

※公表の会議録には、正副座長以外は（委員氏名）を掲載いたしません。

1 開 会

（本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長）

令和5年度社会教育委員会議の第1回定例会ということで、ただいまから始めさせていただきます。

飯田市教育委員会事務局、生涯学習・スポーツ課の本島と申します。よろしくお願いいたします。

次第に沿いまして進めさせていただきますと思いますが、委員の皆様方には事前に本日の資料のほうを送りさせていただきますので、ご用意いただきまして、本日の会議をお願いいたします。

2 委嘱状交付

（本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長）

委嘱状交付をさせていただきます。

教育長のほうで皆様方の前にまいりまして、委嘱状のほうを交付させていただきますので、お立ちいた
だいてお受けいただければと思います。よろしくお願いいたします。

～熊谷教育長より委嘱状交付～

ありがとうございました。

3 あいさつ

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長)

それでは、開会に先立ちまして、熊谷教育長よりごあいさつを申し上げます。

(熊谷教育長)

改めまして皆様、こんにちは。ただいま委嘱状をお受け取りいただきまして、ありがとうございます。

今年初めての社会教育委員会議でございますが、既に委嘱状のほうでは4月1日からというふうになっており、また既に5月に行われた「オーケストラと友に」のほうではご案内を差し上げたところ、多くの皆様方にその様子も見ていただきまして、本当にありがとうございます。本来であれば、もう少し早く委嘱状をお渡しできれば良いわけですが、例年この時期に開催をしているということで、特に新しく委員になっていただいた方にはなかなか戸惑うこともあったのではないかなと思います。

昨年、長年、社会教育委員としてお世話になった中島座長さんはじめ、何人かの委員の皆さん方が退任をされて、新たに5名の委員の皆様をお迎えすることができました。誠にありがとうございます。それぞれのお立場で社会教育等の中でご活躍をされている皆様方でございます。

この社会教育委員は、社会教育法という法律がございまして、その法律の中に15条・17条・18条というものがございまして、また資料の中にも入っております。それを基に飯田市が社会教育委員条例というものを定めまして、この会議を開催しております。

その目的は、社会教育に関し教育委員会に助言するというためでございます。社会教育に関する諸計画の立案、教育委員会の諮問にご意見をいただくこと、そしてそれに必要な調査研究を行うこととされております。委員の皆様方はそれぞれのご経験、あるいは知見の下にぜひご意見をいただいて、飯田市の教育ビジョンである「地育力による 未来をひらく 心豊かな人づくり」に向けまして、社会教育の側面から見ただけならばというふうに思います。

私の感覚では、飯田市は他市に比べて非常に社会教育にこれまで力を入れてきているという、そういう歴史があるのではないかとこのように見ております。そういうことの中に、この社会教育委員会の委員の皆さん方からご意見をいただき、より良いものをしていっているということも感じておるところでございます。

また、飯田市はご存じのとおり「ムトス」という言葉とあるいは「結い」という言葉を合い言葉にして、市民の皆さん方がお互いに助け合いながら、しかも自ら主体的に取り組むということを飯田市としては応援をしております。その点もご理解をいただきつつ、前向きなご議論をいただければと思っております。

それぞれお立場やお仕事をされる中で、大変お忙しいとは思いますが、ぜひこの会議でご意見をいただきながら、あるいは様々ご出席をいただきながら、飯田市の社会教育を充実してまいりたいと思いま

す。お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

4 委員・職員自己紹介

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長)

本日の資料をめくっていただきまして3ページでありますけれども、委員の皆様方の名簿、それからその下に教育委員会の関係する職員の名簿を付けさせていただいておりますので、この名簿の順番で自己紹介をしていただければありがたいなというふうに思います。マイクをお持ちしますので、順番にお願いできればと思います。お願いします。

<委員・職員自己紹介>

5 説明・確認事項

(伊藤生涯学習・スポーツ課長)

それでは本日、お配りさせていただいた資料4ページ、5ページをお開きいただきたいと思います。

11年目の委員さんもいらっしゃいますので、もう十分ご存じと思いますが、新任の委員さんもいらっしゃいますので、資料に沿って説明をさせていただきたいと思います。

4ページの上にありますように、飯田市では社会教育法の規定に基づいて条例で社会教育委員を設置することになっています。

教育長のあいさつの中にもございましたが、5ページの上の段が社会教育法の規定でございます。

市町村に社会教育委員を置くことができるということで、職務としますと社会教育に関して教育委員会に助言するために、社会教育に関する諸計画の立案、または会議を開き、教育委員会の諮問に応じ意見を述べること、その他業務に必要な調査研究を行うこと。それから教育委員会の会議に出席をして意見を述べることができるということで、先ほども委員からのお話がありましたが、独任制ということで、特に会議としての合議制の身分と委員としてそれぞれのお立場でご意見を言っていただけ、そういった2つの役割が規定されております。

下が飯田市の条例でございますけれども、飯田市では第2条にありますように、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う方や、学識経験のある方に委員をお願いをするということで、委員の定数は12名、任期は2年ということで、皆さんには令和5年、6年の2年間ということでお願いをしたいと思います。

4ページの中段以降でございますけれども、飯田市の教育委員会の組織についても載せております。

教育委員会は、市長が議会の同意を得て、教育長と4名の教育委員を任命し、事務レベルでは教育長をトップにしまして、部長級の教育次長、それからその下に教育委員会事務局として学校教育課と生涯学

習・スポーツ課、文化財保護活用課、それから教育機関としまして公民館から飯田文化会館まで5つの機関が設置されています。文化財保護活用課は、教育委員会事務局という側面と教育機関の側面、両方関わるような組織として進めてまいります。本日の会議についても社会教育機関、学校教育に関しまして、今、地域や家庭との連携ということがすごく進んでおりますので、学校教育課も含めて全課から職員が出席をさせていただいております。

おめくりいただいて6ページをお願いいたします。こちらが社会教育委員会議の運営規定でございます。

第2条にありますように、この会議に座長及び副座長を置くということで、また協議事項の中でこの2年間の座長、副座長をお決めいただくようなこととなりますので、よろしくお願いいたします。

第3条にありますように、この会議は教育長が招集し、座長が議長となるということで、第2項のところでは、委員の半数が出席しなければ開くことができないということで、ここは特に合議制の部分で一定の要件が定められておりますし、第3項にありますように、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は議長の決するところによるということで、例えば会議としては方向性を決めていただけるにはこういった部分も定められております。

それから第5条でありますけれども、この会議は定例会及び臨時会ということで、定例会は年2回、臨時会は必要に応じてということであります。通年でありますと定例会2回と臨時会1回くらいというようなことになるかと思いますが、先ほどの職務のところにあった社会教育に関する諸計画の立案ということで、飯田市教育振興基本計画が今年が3年目になりますけれども、この計画の見直しが始まってまいります。7ページは現在の飯田市教育振興基本計画計画中期4年間の取組ということで、この計画は令和3年度から令和6年度までの4年間の計画でございますので、任期2年目の来年度はこの計画の最後の年になりますので、令和7年度以降の計画の方向性については、社会教育委員の皆さんからご意見をいただきながら計画の策定をしていくこととなると思いますので、よろしくお願いいたします。

教育振興基本計画の大きな柱ですが、重点目標1の緑色の部分でありますけれども、ここでは「『結い心』に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む」ということで、それぞれ黒四角で具体的なアクションプランを定めております。

重点目標2、「豊かな『学びの土壌』を活かした『学習と交流』を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む」、それから重点目標3では「文化・スポーツを通じて人と地域の輝き・うらおいをつくる」ということで、この3つが主に社会教育の関わる教育委員会の計画の大きな柱となっております。

それでは、おめくりいただきたいと思いますが、8ページから23ページまでございます。事前に資料を送らせていただいておりますので、なかなかボリューム感がありますので、本日の説明は省略をさせていただきます。ただいま説明をしました教育振興基本計画の大きなアクションプランの取組ごとにそれぞれの各課・館・所が持つ事務事業の令和4年度の取組からの成果と課題、それから右側には令和5年度の取組の

方向性ということで整理をさせていただいております。またお時間があるときにぜひご覧をいただければと思います。

それから、長野県社会教育委員の手引きという資料、お手元にございますでしょうか。これ全てのことは少し説明は省略、割愛させていただく部分がございますけれども、まずは長野県全体でも社会教育委員って何をしたら良いのって、やはりそれぞれの市町村悩みがある中で、こういったものが昨年12月に策定をされたというものでございます。再任の委員の皆さんも多分今回初めてお配りをさせていただいておるものになりますけれども、表紙をめくっていただきますと、社会教育委員の役割ということで「社会教育委員は何をするの」とか「どんな人が委員になるの」というようなことの記載があります。また、独任制としてお一人お一人の委員の方が意見を述べるができるということで、委員さんがお一人でも活動できるということがほかの会議のものとは少し違う点であります。例えば6番には、地域住民と学校との連携・協働に参画する社会教育委員の声ということで、学校のほうも今、コミュニティスクールってということで、学校だけではなくて地域が関わる、そういった取組がそれぞれで進んできておりますので、またこういったところもご覧いただきながら活動の参考にしていただければと思います。

最後の裏表紙の前のページ辺りとその前、大きなローマ数字のⅡ、Ⅲのところは、まずは社会教育とはということで、ここは「そもそも社会教育って何」ってというようなことも書いてありますし、最後のページには「生涯学習と社会教育って何が違うの」ってというようなことで、そういったものの考え方も整理をされたものが掲載されておりますので、ご覧下さい。また、活動に際してご不安な点等は社会教育係にお問い合わせいただければと思います。私からの説明は以上でございます。

(秦野教育次長)

生涯学習・スポーツ課長からお話をしましたが、いいだ未来デザイン2028と第2次飯田市教育振興基本計画中期4年間の計画期間が一緒になっておりまして、来年度が最後の年となります。古い委員の皆さんは、ご存じだったかもしれませんが、以前の飯田市の教育委員会は社会教育方針というのを策定しておりまして、それを今の教育ビジョン、第2次の飯田市教育振興基本計画を立ち上げるときに、社会教育方針も一緒にしてつくり上げたということがございます。

先ほどの説明の中に出てまいりました社会教育に関する諸計画を立案することということで、社会教育委員の皆様方をお願いをしているところでもありますけれども、今、未来ビジョンと連動しているということがあるものですから、市の企画課とも打合せをしながら進めていく形にはなりますが、教育ビジョンの後期の4年間を立ち上げていくという時期に入りますので、また来年度はこの会議を複数回お願いすることになるかと思っておりますので、何卒よろしくお願ひしたいと思います。

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長)

特に資料7ページ以降の部分については、社会教育委員の皆様方にしっかりとご覧いただき、ご意見

をしっかりといただきたいところではございますけれども、この部分は、昨年度の3月に行いました社会教育委員会議の中で、既に当時の委員さんにはご覧いただきご意見いただいているものになります。新しい委員の皆様方は初めて目を通していただく部分になろうかなというふうに思いますけれども、今日、議論をさせていただくというようなことはしませんけれども、それぞれにご意見ございましたら個別に私どものほうにお寄せいただきますよう、ご一読をお願いいたします。

6 協議事項

(1) 座長、副座長の選出について

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長)

協議事項に入っております。

座長、副座長が決まるまでの間、事務局で進めさせていただきます。まずは座長、副座長の選出をお願いします。社会教育委員の中の互選で座長、副座長をご選出いただくということとなっております。座長・副座長は、飯伊社会教育委員連絡協議会の理事を兼ねていただきます。また、座長は県の代議員も兼ねていただくということとなっております。座長、副座長は1年の任期で、社会教育委員会議において委員の皆様方の意見を引き出させていただき、そんなお役をお願いしたいと思っております。委員の皆様方の互選でお決めいただくということになっておりますけれども、どのように進めさせていただいたら良いか、ご意見がある方はお出しいただければありがたいと思います。いかがでしょうか。

(委員)

事務局に腹案があれば挙げていただきたいんですが。

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長)

○委員のほうから、事務局の腹案をというようなご発言いただきましたけれども、そういうことでよろしいでしょうか。

(発言する者なし)

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長)

事務局の腹案を発表させていただきます。座長に○さん、副座長に○さんをお願いしたいと思っております。ご承認いただけるようであれば拍手でお願いできればと思います。

(拍手)

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長)

ありがとうございました。○さんと○さん、座長、副座長席へ移動いただきまして、以下の協議事項を進めいただければと思います。お願いいたします。

(座長・副座長席へ移動)

(座長)

ただいま座長に指名されました〇と言います。元々社会教育のほうはあまり詳しくはありませんし、非常に浅学非才のそういう身でありますので、皆様にご迷惑をかけるかなということを思いますがよろしく願います。私、過去に2回、大病を患っております、今回もちよっとそれに近い方向に今いっちゃって、いつまでできるかなっていうのがそれ今の体の実感です。ですので、とにかく再三にわたりお断りしたんですけど、どうしてもということなので、できるところまでとにかくやっついこうかなということを思いました。皆さんの協力でよろしく願います。お世話になります。

(副座長)

副座長にご指名いただきました、〇と申します。よろしく願います。ご意見を引き出す役割ということもありましたし、初心に戻って新たに初々しい気持ちでやっていきたいと思っております。よろしく願います。

(2)審議会等への委員の選任について

(座長、副座長の進行により次のように決定)

飯伊社会教育委員連絡協議会理事・県代議員	筒井 良二
飯伊社会教育委員連絡協議会理事	永井 祐子
飯田市美術博物館評議員	今村 光利
飯田市青少年問題協議会委員	中村 由美子
青少年育成センター青少年育成推進委員	長谷部 智子
「人形劇のまち飯田」運営協議会	森本 典子
飯田市キャリア教育推進協議会委員	田添 莊文
飯田市中学生期の文化芸術・スポーツ活動連携協議会	三浦 宏子
わが家の結いタイム推進協議会(校長会)	滝澤 勇一
いいだ未来デザイン会議委員	永井 祐子

(3)飯田市キャリア教育の推進について

(座長)

それでは、飯田市のキャリア教育の推進について、事務局のほうから10分ほど説明をいただいて、あと意見交換ということで願います。

(片桐教育支援指導主事)

キャリア教育の担当をしております片桐と申します。

社会教育委員の皆様には、様々なところで支えていただき、本当にありがとうございます。

資料ナンバー6、25 ページのA3の全体図、イメージ図をお開きください。

もうご存じかと思いますが、キャリア教育は単に職業選択や進路指導する教育ではなくて、豊かな人間性や生きる力を育みながら地域の未来をつくっていくものになります。飯田市で取り組む飯田型キャリア教育をより理解してもらうために、今年度からは頭の部分に「地育力で私と地域の未来をひらく」をつけて「飯田型キャリア教育」を、皆様に説明をしていきたいと思っています。

上部のグレーの部分がねらいになります。昨年度、改正したものになります。「変化の激しいこれからの時代を生き抜くために、地球規模で物事を考える広い視野と、生まれ育った地域に誇りと愛着を育むことが大切だと考えています。『地育力』を活用したふるさと学習や体験的な学びを軸とした『飯田型キャリア教育』を幼児期から高等教育期まで、発達段階に応じて切れ目なく推進していきます。『飯田型キャリア教育』では、自らの生き方を主体的に切り開き、人とつながりあっていくための力を育み、ふるさとを心根に、未来の地域の担い手や地域を支える人、ふるさとの良さに気づき自ら関わろうとする態度をもつ人づくりを目指します。」というねらいがありまして、右には、飯田型キャリア教育で育みたい力として、人とつながる力など、4つを挙げ、ふるさとの良さに気づき、自ら関わろうとする態度は、4つの力を支えるものであり、目指す姿として位置付けてあります。

中央の図ですが、昨年度より幼児期から高等教育期までのつながりで考えていくことが人材育成にもつながると考え、縦軸が発達段階、横軸が地域や社会との関わりを表わしており、右上がりのキャリア形成上に発達段階に応じた実践を表わしています。

イメージ図の事例には昨年度2月に行われた飯田市キャリア教育推進フォーラムで発表した地育力を活用した様々な学習や育ちなどを載せてあります。事例1では、殿岡保育園の「いいだ型自然保育」で遊びや好奇心を大事にした体験学習。事例2の丸山小学校のふるさと学習として、伝統芸能獅子舞や身近な人の仕事調べ。事例3、竜峡中学校の全校で取り組むふるさと学習や地域に参画する農業、職場、福祉体験活動。事例4、飯田OIDE長姫高等学校の飯田市の課題でもある移住促進に関するスマートグラスを用いた研究。事例5、飯田女子短期大学の「ひさかた和紙」とのコラボレーションによる地域貢献活動です。

これらを支えているものには中央部分にありますが、小中連携・一貫教育の推進や平成29年度に設置された飯田コミュニティスクールが機能し、公民館などの地育力を活用しながら様々な学習が展開されています。

中学校では、全ての学校で職場体験学習が計画され、教育委員会で学校と企業のマッチングのお手伝いをしています。コロナ禍でできなかったので、今年は全ての学校で実施を願っています。

ほかに教育委員会では、中学2年生を対象に結いジュニアリーダー育成講座を計画しています。子どもたちが自分ごととして取り組み、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり見返したり主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなげていくように考えており、キャリア・パスポートの活用も始まったので、

そのより良い活用方法についても研究・検討していきたいと思います。

この図の昨年と変えたところには、中央図の右下のところですが、家庭や地域社会におけるキャリア教育との連携の四角いピンクと黄緑のところを載せたものです。キャリア教育は、学校教育だけで行われるものではなく、家庭や地域との連携が大事になってきます。発達段階に応じて家庭中心からだんだんと地域社会での関わりが大きくなっていきますので、わが家の結いタイムの実践や地域、公民館行事への参加・参画、ボランティア活動への参加等もキャリア発達に大きく関わっていくと考えて学校・地域・家庭との連携を大事にしていきたいと考え載せてあります。

26 ページになります。ここからは具体的な推進についてまとめてあります。

1のねらいと2の育みたい4つの力については、さきほどのグレーの部分を少し詳しくしてあるものです。

27 ページです。3の推進の方針については、社会全体で実体験に伴う場をつくることや、それぞれの目的を共有し、協働して支えていくようにしたいと思います。

4の各学校における方策の留意点については、より良い体験になるようにカリキュラムを基にしながらも教師がルールを引きすぎないように、子どもの主体性を大事にしていくことや、振り返りをするを大事にすること。また、取組の視点として県から示されている自己理解、他者理解、役割理解という3つの視点と「自己決定」を大事に展開していくことで目指す資質・能力が育まれると考えます。

5には、地域・社会教育におけるキャリア教育を載せてありますが、これも3つの視点と自己決定をすることを大事に子どもたちと接していくことが必要かなというふうに考えて載せてあります。

28ページからは、会議開催等の計画です。幼児期から高等教育期まで一貫した理念で子どもや若者を育てるために、今年度から(1)の飯田市キャリア教育推進協議会と(2)飯田市キャリア教育研究委員会に飯田短期大学と飯田コアカレッジにも参加していただき、1年交替に委嘱をして一緒に勉強していきたいと思います。

29ページになります。

(3)の高校生の取組については、昨年度力を入れてきたところで、総合的な探究の時間への支援や社会教育機関からのアプローチをしてきました。

(4)学校と地域が連携した取組については、高校生と地域をつなぐ取組を大事にし、特に進学校において地元企業を知らずに大学進学をする生徒が多い現状ですので、産業振興課とも連携して進めていきたいと思います。

30ページですけれども、これは今年度のキャリア教育を推進していく上での推進体制になります。新たに高等教育機関まで加え、発達段階に応じて整理してあります。

31ページです。

これは先ほどお話した昨年度の高校生のキャリア教育の取組についてまとめてあります。左の緑が各高

校の取組に対しての支援で、右のピンクが社会教育からのアプローチです。

次のページから42ページまでのカラーであるページは、その具体的な内容になっています。特に説明はしませんがまたご覧ください。

最後に、43 ページをお開きください。

キャリア教育に関わる意識調査についての結果です。高校生の実態把握をするために、昨年12月に実施し、小中学校の全国学力学習状況調査の結果も参考として載せてあります。

問1として、「ふるさとに対して愛着を感じますか」について、①「当てはまる」、②「どちらかといえば当てはまる」を合わせた肯定的な回答が「市高」というのは、市内の中学校を卒業した高校生の合計ですが、81.4%ありました。その下の「8高」とは、南信州8高校の全生徒で81.0%とどちらも8割を超えています。非常に高い数値だと思います。

平成27度は南信州8校の各学年1学級ずつを抽出した結果ですが、75.0%であり、高校生の地域への愛着度は高まっていることが分かりました。

小中学校でも同様の質問を取り、小学校が84.4、中学三年生が76.1という結果になっております。

高校生の結果については、小学校・中学校において地域の人・もの・ことに触れる学びを行ってきたことや、高校において地域と関わる活動による成果ではないかと思っています。

問2・問3については、高校生の発達段階に応じた内容にするために、市内の高等学校の校長先生との懇談の中で検討して決めた質問項目です。

問2では、地域社会をより良くするために地域課題の解決に関わりたいと思う高校生は6割以上となっております。参考として小中の全国学力学習状況調査の類似の質問によると、中学校の肯定的な割合と比べても高校生が地域に関わろうとする意識は高くなっています。また、中学生の数値については、県平均よりも低いことがここ数年の課題ともなっております。

問3、地域社会と自分のつながりや関係を意識しながら、自分の将来について考えることがある割合は5割程度です。他と比較するデータにありませんが、キャリア教育の願いでもある「地域の担い手」や、外からでも「地域を支える人づくり」につながる指標であるので、さらに高めていきたいと思っております。

以上ですが、コロナが5類になり地域での体験活動等が充実してくるかと思います。子どもや若者が地域に愛着を持ち、自らの人生を切り開いていけるようにするために、社会教育委員としてのお立場でご意見がありましたらよろしく願いいたします。

以上です。

(座長)

それでは、飯田型キャリア教育、非常に多岐にわたって、一遍聞いただけではとてもとても理解できないわけですけど、今素朴なところで結構であります。質問、ご意見でまず質問からいきたいと思いますが、

ご質問のある方お願いします。

(委員)

知育力で私と未来を切りひらく「飯田型キャリア教育」が満を持してここへ出てきたという感じがいたします。育みたい力など、マンダラのように描かれておりますけれども、こうなるためにはどうしたら良いかということでもまず質問したいと思います。

前回、「情報の共有が園・小・中・高とつながっていかなければいけないだろう」と、ポートフォリオのようなものがあれば良いねという話をした記憶がございます。今回「キャリアパスポート」という言葉が出てまいりましたけれども、その中身と言いますか、どのようなものであるのか、まず教えていただきたいと思えます。

(片桐教育支援指導主事)

文部科学省のほうから示されて、各学習のまとめ、ポートフォリオ的なものをつなげていくっていうようなものでありますが、たくさん書類をただただつなげて持っていくのではなくて、毎年自分たちの自分の成長を見返しながら、また飯田市としては地域の人との関わりというページをつくってありますので、その共通ページを整えながら、自らの成長やそれからこれから先のものを見返すことができるもの。そしてそれらを少し担任の先生や学級でも共有しながら、お互いの成長を確認したり、担任としても子どもと対話ができる、そのようなものになっています。

ただ、実際のところ飯田市のほうでは、令和3年度から共通ページという形でやっておりまして、それは1枚のシートになっていますが、小学校の高学年で1枚のシート、中学校で1枚のシート、それ以外には各学校のいろんな活動をそれぞれまとめていくわけですが、そのまとめる内容についてはまだ各学校によって非常に差があるので、キャリア教育研究委員会で情報共有しながら進めていきたいと思いますということで、昨年度より取り組んでおります。

実態を言いますと、厚いものをどんと高校のほうに差し出しても高校のほうでも見きれないとか、まだまだ学校によっては渡せるような書類とないっていう地域もありますので、そこら辺は情報共有しながら進めていきたいと思っています。

キャリアパスポートをつくるのが目的ではなくて、子どもたちが自分の足跡を自分で実感しながら進んでいけるようなそんなものにしていきたいという願いがあります。

(委員)

まだ始まって試行錯誤が必要であるというふうには理解できるんですけども、地域の方などの伴走者との関わり方を端的にまとめるというのが27ページにありますけれども、やはり必要最低限というだけでは物足りない。母子手帳のようにやっぱりあるべきものはきちんと書き込まれる必要があると思うんですけども、大事なはその過程の軌跡をただ表わすのではなくて、つかんだその中身というんですかね、どこ

で自分がどういうものに気がついて、そこから何を学んだのってということが、ちゃんと序列で自分で確認できるような形にさせていただくというのが大事なんじゃないかな。そういう点では、その下に自己理解、他者理解、役割理解とございますけれども、これがまたこういう項目が自分にとって返ってくるような形にさせていただくことが大事なんじゃないか。そういう点では、ある程度の量も必要になってくるんじゃないかな、そこがまず1点であります。

それから、これは小中高とつながっていきますと、学校教育目標の評価とその対象になるのかどうかというところが問題になってくるかなというふうに感じます。30ページのところにそのつながりのようなものが描かれておりまして、その担当するところもあとのつながりがあるわけですがけれども、これ大変壮大な計画でありまして、これは成功するか否かでもって、少子高齢化でどんどん地域が縮小化していく中で、未来の飯田市、あるいは上伊那との連携とも考えているとすれば、南信州の未来をここでつくっていく、改めていく大事な要素になってくるんじゃないかなというふうに思うわけです。そういう点では、そのデータをどのように共有して、誰のためにそうやっていくのかっていうことをしっかり検討した上で進めていただきたいなど。情報は誰のものかと。ぜひ本人とともにあるそういう情報にしていきたいというふうに思います。

(座長)

今の点、非常に大事ななということを思います。関連してお願いします。

(委員)

今の意見のところの本人たちが気がついているとか、本人のためのというところがあったんですけども、2月のキャリア教育フォーラムで鼎中の発表がありまして、そのときに鼎中では公民館の活動に地域の人が子どもたちが中学生のボランティア活動をしているという話を聞いて、早速「おもしろ科学工房でも来てほしい」という話をしました。

そうしたところ、公民館からすぐに中学校に情報が渡って、中学校のほうで何月何日にボランティアに来てくれという話が掲示板かなんかに貼るのかな。そうすると、それを見た中学生が応募して、まとめて一か月分を教育委員会のほうへ提出してくれる。そのシステムができていること自体すごいなと思いました。

それで来てくれた初日に、今まで高校生、大学生、信金の大人の方々、皆さんボランティアで来てくれていたんですけども、中学生にどう対応したら良いかっていうのをちょっと心配したんですけども、来た子どもたちが地域でおそらくボランティアをしているせいなんではないでしょうか、何も指示しなくても自分で動くという成長している姿にびっくりしたんですね。

たまたま4人が毎週のように来てくれて、またほかの人も来てくれたりするんですけども、その中で学校側からは、その子たち来た子たちについての感想をこちら側から書く、そうするとそれが学校に戻って、子どもたちがどんなふうだったかなということになる。と、子どもたちは子どもたちで自分の今日の反省を

書くと、そういうふうになっているらしいですね。そういう繰り返して、子どもたちは自分が今日どんなことをやったかなどか、そういう気づきが出てきているんだろうととても思いました。

今まで高校なり社会人の人が入ってくれて、「今日のこれこれこういうことをしてこういうことを子どもたちに教えて、子どもが怪我をしないように気をつけるんだよ」と「カウントしてくださいね」っていうことを一通り説明すると、大体の人は立っているんですよ。ところが、その中学生は、一番最初に来たときにふっと私の顔を見て最初に「どうしたら良いの」っていう顔をしたんですが、じゃあ一番最初にこうやってこの実験は遊ぶんだよっていうことを先にそのものを教えて、それから作り方を教えるんだよっていうことを、一度教えたら、あとは全部その子たちが来たからじゃあそっち行ってとか、そうしてその後でふと見てたら、作ったものを小さな子どもたち遊んでいるんですよ。私たちだとスタッフ忙しいので人数も少ないので、作って「はい、これできたよ。家で遊んでね」っていうことになるんですが、その子たちはそれを使って遊ぶんですよ、子どもたちと。それによってもうキャーキャーキャーキャー言っておいで館の中が明るくなる。この子たちはどうしてこういうふうな成長を遂げたのか不思議で、例えば紙飛行機を飛ばして高いところに行き上がっちゃったと。そうするといつもだったらみんな見ているんですが、その子たちは自分で棒を探しに行って、誰にも言われなくても、落としているんですよ。そうして遊ぶ。

それでまたそのときは4人くらい来たんですが、3人くらいが子どもと紙飛行機でキャーキャー大きな声して騒いで遊んでいるんですよ。子どもたちもすごいうれしくて遊んで。そうしたらその子たちが帰ったら一人の子が「なんであんなに大きな声を出して、中学生なのに」みたいなことを言ったら、その子たちは「何やってんの。今こうやってやらなきゃいつやるの。学校行ったらこんなことできないでしょ」って言っているんですよ。そういう話を聞いて、やっぱりそれは全部自分の身になって、ここの場所だからこういうことをしようとかすごく考えているなど。おそらくキャリアって、こういう子どもたちを育てるためなんだろうなと思いました。

それでまたなんで中学生こんなに育っているのかなって思ったときに、鼎は昔からこういうボランティアを小規模でやっていたらしいんですね。それを去年から広くそれを解放して、やっている。今年2年目なんですけども、その子たちは「去年から始まりました」って言ってたけれども、鼎に住んでいる大人の方に聞くと、「もうなんか昔からそういうのがあったんだよ」っていう話をしました。

なので、やっぱりそういう基礎っていうか、公民館でそういうボランティアとかそういう活動を常にやって、それに携わっている子どもたち、そういう環境づくりを地域でつくってやっていくということが、子どもを育てることになるんじゃないかなっていうふうなので、すごくこのところ感じてます。

「委員さん、良い子たちに出会ったんだよ」って言われましたけれども、これから先、どういう子たちが来るか分からないですけども、やはり中学生の時期、小学生の時期とかに地域と交わって育てるっていうことは、すごい本人が育つことだなと。大人になってからだとなかなかその気づきっていうことができない

し、命令されちゃったってということになるんですね。毎週毎週、伊那から来てくれる家族がいるんですが、毎週毎週ボランティアをしてくれている。私が気がつかなかったんですが、そうしたらその子は小さな子とすぐに仲良くなって、帰りには「また来るね」って言っているっていう姿を見て、「ああ、こういうのが目指す姿かな」と思いました。

(座長)

本当に良い実践例をお話しいただいてありがとうございます。ほかにもいかがでしょうか。

(委員)

ちょっと今の話とはちょっと関わらなくなってしまうんだけど、でも今の委員の話を聞きながら、キャリア教育スタートしたのが平成18年からです。それ以来18年から20年弱、かなり始めてからたっているんです。そのキャリア教育の成果ってどういうふうに出てきているのかなって辺りがまた考えていきたいところなんですけど、キャリアスタートウィークって18年に始めたのは職場体験。5日間行ってくださいってそこから飯田市がキャリア教育スタートしているわけで、それからずっと大分キャリア教育の育まれる場、キャリア形成ですかね、今、お話があっているいろんな場で育まれていくんだろうな。ベースは学校の授業がベースになっていくとは思いますが、今お話を聞きながら、やはりこれが地域づくりにおいても非常に大事なキャリア教育を大事にしていかなければいけないだろうな、そんなことを思います。

キャリア形成というのは、私たち自身が日々キャリア形成をしながら生きていく。要するに自分と社会との関係の中で、自分はどう生きていくのか。生き方を考えていくのがキャリア教育だと思うんですけどね。そこら辺のところも、私たち自身の問題としてキャリア形成を考えていかなければいけないだろうなと思います。

それで公民館で昨年度、各公民館の反省で上がってきた一つの事項とすれば、「公民館で活動してくれる人、一人一人をいかに楽しく、そういう中でやりがい感とか生きがい感を持ってもらえるのかなって辺りが、これからの公民館活動で大事なんだろうかな」って、そういうような意見がたくさんありました。実はこれも一つのキャリアなんですよ。キャリアを積んでいく一つの大事な場なんだよって。要するに単に子どもたちだけじゃなくて、私たち自身もそういった社会に目を向けながら生きていくわけで、そういう私たちの営みをやはり子どもたちに合わせながら考えていくことが本当に大事じゃないかなと、そんなことを思っております。

最初にスタートしたときは、キャリアっていうのは、中学生だけのものかなと思っていたんですけど、指導者にまず言われたことは「先生方もまず職場体験を下さい」と、「先生方もまずキャリア教育をやってみてください」って「簡単に言えばそこからスタートするんだよ」って辺りで、そこから先生方を集めて結いキャリアアップ講座を開いたことがあります。私たち自身の問題としてやはり考えていくということが本当大事じゃなからうかなと、そんなことを思いました。

(座長)

キャリア教育の幅広さ、本当にそこら辺が究極の目的になるででしょう。

(委員)

特にあれなんです、委員が言った鼎の取組は、鼎は古くからJRCのボランティアの活動をよくやっているんで、そういった小さい単位で動く、そういうのはよくできる形なのかなというふうに思ってます。

さっきもちょっと出てました。ポートフォリオだとか、アセットアロケーションだとか、いろいろ記録がそういうのが大事だという部分があるんですけど、私自身が述べてつくらず、一切ものを書かない、報告書すら仕事を終えて書かない人間なんで、それよりか記録よりやっぱり記憶かなというふうに思ってます。いろんなキャリア体験することが記憶がすごく大事のように私は感じていて、しっかり体験したことを自分の中で咀嚼して、反駁しながら、反省をしながら、アウフヘーベンしていくっていう作業がしっかりできる。それからそれをセルフコンテイン、自己完結で入れていく。で、次の行動に移る。常に実践、その繰り返しだと思うんですけど、あまり結果にとらわれて急ぎすぎていると全て流れてしまうのかな。我々大人もそうですけど、常に追われて追われて、そこをしっかりと時間をかけて、ゆっくりと見ていって、今回のまとめを見てもしっかり俯瞰して大きく捉えている。よく短期間でまとまっているなどちょっと今、話をしていたんです。

細かいポートフォリオなんてすごい分厚いもので一切誰が見るか分からないくらいなものになったりする。それを大雑把に見るとアセットアロケーションになってくると思うんですけど、それよりも一番大事なのはやっている本人たちの記憶にしっかり残るっていうのがふるさと教育だったりキャリア教育だったりするんで、体験させることも大事だし、それを定着させるための時間、自分の中でセルフコンテインってということがしっかりできるように、そこをしっかりと見ていきたいなというふうに思っています。

(座長)

もっともっといっぱい皆さんいろんな実践例なんか持っているかと思いますが、時間が限られていますので、キャリア教育のほうこれくらいにして、次に行きたいと思います。

(4)部活動地域移行を見すえた中学生期のスポーツ・文化芸術活動環境の充実に向けた取組について

(座長)

説明をお願いします。

(氏原生涯学習・スポーツ課長補佐兼スポーツ振興係長)

資料7をご覧いただきたいと思います。飯田市では平成30年度にスポーツ庁、文化庁、そして長野県から出されましたガイドラインや活動指針に基づきまして、中学校の部活動の改革に取り組んでまいりました。

そして、令和4年12月に、休日の部活動を令和5年から3年間で段階的に地域へ移行していくというガ

イドラインがスポーツ庁と文化庁から一緒に出されております。そしてこの3年間を移行推進期間として国のほうでは進めることとなっております。

なぜこのようなガイドラインが示され改革してきているか、背景と課題ということで書かせていただきましたが、まずは少子化というものを背景に生徒数の減少に伴う部活動の減少、競技ですとかそういった活動の選択肢の少なさってということで、大規模校・小規模校間には確実に体験の格差というものが出てきております。また、専門的な知識や技能、経験、そして競技経験の少ない先生方というものの指導が増えてきていること。そして過熱化ということで中体連で勝つこと、そしてコンクール等で上位の入賞を目指すことが求められてきておまして、結果的に活動時間が長時間化しているというようなそんな課題が出てきております。そして中学校だけではなくて、少年スポーツ、もう小学校の時代からスポーツをやり過ぎていて、中学校に上がるときに運動部活動に入りたいくないというような生徒が増えてきたり、また、高校に入るときにも中学校でやり過ぎていたので部活動には入らないというような加入率の低下、そこがまた体力低下の一因になっているのではないかといいような課題が出てまいりました。

そこで2番目にございますように、これまで重点的な取組としてまずは学校教育の中で生徒の心身の成長に配慮した学校部活動の適正化ということで、部活動のここに書かれておりますように意義というものを再確認をしながら、適正な活動時間の設定ということで、平日・休日の練習時間や休養日を規定すること。また、部活動の延長としてやっている社会体育を廃止すること。そして、11月から1月までの3カ月間を、放課後部活動オフ期間として完全オフの期間をつくってまいりました。そういったことで、無制限にやっていた練習時間等を制限することにより、学校の部活動の適正化ということを進めてまいっております。

2番目にございますが、一方、社会教育の活動として地域における多様な選択肢が可能な活動の場づくりということで、飯田市スポーツ協会との連携によって全市型競技別スポーツスクールというものを元年度から実施をしております。やってみたいという子が体験型のスクールに行ったり、もっともっと一つの種目を極めたいという生徒たちのために競技力向上ということで、中学生の志向に応じた教室を令和4年度は16競技20講座実施をし、また文化活動としましては、社会教育機関等と連携して、下にありますように英会話の体験とかプログラミング教室、人形劇、各地区の公民館の教室などに生徒が参加するような、そんな講座をこのオフ期間の間に実施をしてきております。

3番目といたしまして、こちらで学校教育・社会教育の中で生徒の主体性を育む取組と活動を支える教職員、指導者の力量形成ということで、こちらは筑波大学との連携によって授業を実施したり、指導者や教員を対象とした研修会を実施してまいりました。

先ほど申し上げました11月から1月のオフ期間というのを「冬季ジブン・チャレンジ期間」ということで、生徒が本当にやりたい、自分がやりたいこと、挑戦に挑戦すべきか、目標を決めて具体的な計画を立てて振り返る、そういう一連のプロセスを通じて主体性を育むということで、実施をしてまいっております。

続きまして、45ページですけれども、これまでの取組の成果と課題ということで、部活動の適正化をすることによって怪我が減ってまいりました。また、中学校の地域には多様なスポーツ・文化活動の機会提供をすることができ、特に全市の取組となりますので、学校の枠を越えて新しい仲間との交流の機会というものを提供することできております。

また、「ジブン・チャレンジ期間」ということで、特に生徒の主体性を育む研修会等を通じて、そういった子どもたちの挑戦する意欲というものの向上が見られております。

課題といたしましては、やはり部活動を地域に移行するというところで、保護者や地域指導者の中学生のスポーツ活動に対する意識の醸成ということが課題となっておりますので、またまだまだもっと「部活がなんでできないのか」というようなお話もいただいております。

また、特に小規模や山間部の生徒のニーズに応じた活動というものが十分にできてはおりません。

今年度、令和5年度の取組の方向性ということで、こちらに書かせていただいておりますけれども、まず部活動の地域移行を進めていく上では、従来の学校の部活動の受け皿をつくって、その後、地域に移行するというのではなく、これまでの取組を大切にしながらここにありますが、目指す姿として中学生がウェルビーイングを感じながら地域の中でやりたいスポーツ・文化芸術活動に挑戦できる場づくりを進めていく、こういった方向性で進めてまいりたいと思っています。

取組の方向性ということで、下に6つほど挙げてございますが、まずは今年度部活動地域支援コーディネーターを配置をいたしまして、学校と地域をつなぐ役割を担っていくことを進めてまいります。

次に、これまでの全市型競技別スポーツスクールや文化講座は、一つの選択肢、生徒の選択肢の一つと捉え、今後また各地区の関係団体、民間等と連携して中学生の新たな活動の場の創設を考えてまいります。引き続き学校教育においては、生徒の部活動の適正化の継続、そして主体性を育む指導者の育成というものを進めてまいります。

5番目になりますが、なかなか保護者や地域の理解の促進が進まないということで、こちらのほうも研修会や学習会等を進めていきたいと思っております。既に3つの中学校、そして今後6月には小学校でも説明会を持たせていただいて、理解を促進していきたいと考えております。

そして6番目にありますが、協議会を設置して、関係する皆様で今後継続した体制づくりというものを目指していきたいということで実施をしてまいります。

46ページにその協議会の設置についてということがございますが、一昨日第1回目の協議会を開催いたしました。目的はここに書いてあるとおりでございます。

協議内容でございますけれども、様々な課題を解決していくためにまずは目的の共有、進め方の共有、エリアをどうしていくのか、運営主体はどうなっていくか、指導者の確保・育成はどうするのか、参加費、そして財源はどうしていくか、また保護者や指導者の方の意識どうやって醸成していくかというようなこと

を皆さんに協議をしていただき、方向性を見つけてまいりたいと思っております。

構成メンバー等はここに書いてあるとおりなのですが、本部会とそして文化部会とスポーツ部会、それぞれ課題が違いますので、それらを平行して実施をしながら今年度末にはおよそのスケジュール、3年間を通じてどういうふうにしていくのかっていうことが見えてくると良いかなというふうに感じております。

こちらの方向性ということで、目指す姿ですとか飯田市がこれまでの取組についてを大事にしながら進めていくというそういった考え方、そして協議会で協議する内容ですとか、今課題になっているようなこと、またご意見頂戴できればと思います。

(座長)

一つ質問ですけれど、その飯田市とそれから下伊那の連携ってどんなふうに考えていますか。

(氏原生涯学習・スポーツ課長補佐兼スポーツ振興係長)

飯田下伊那の関係でいきますと、南信教育事務所でジュニア期のスポーツ活動のあり方検討会議というものを平成30年頃から立ち上げており、そちらで課題を共有してきています。飯田市もそちらに参画しながら、一緒に活動ができていくと良いと考えています。

(座長)

基本的にはこの会議を進めながら、連携しながらいくということで良いんですか。

ほかに質問はあればどうぞ。

(委員)

この部活動地域移行っていう名前を変えませんか。さっきの中学生の話なんですけども、お昼休みに話をしているんですね、子どもたちが。そのときに部活の話をしていて、クラブの話をしていて、「ちょっと意味が分からないから聞いて良い」って言って子どもたちに聞いてみたんですね。「今、部活はどういうふうになっているの」って言ったら、「平日は2時間とその後にクラブがあります」と。「そのクラブって何。社会体育じゃないの」って聞いたら、「クラブがあります」と。「自分たちでクラブに入って部活が終わった後にそのクラブをやっている」と、「え、社会体育と変わらんじゃん」って。

で、6月に中体連があるのかな。そのせいだと思う。それだと思うんですけど、「ボランティアに来ていと休まなくちゃいけないので、なんか休まないようにという連絡網が回った」という話を子どもたちがして、「だから休まないといけないかもしれない」っていうような話をしているんですね。その中で話を聞いてたら、「私たちはコロナの時代があって、部活をそんなにガンガンやってないからすごく一生懸命クラブに入ってやって、どこかで優勝したいとかそんなことは考えていない」と。「うん、そうだよな」って思って聞いてたんですけど、だから運動を楽しみたくてやっているんだけど、ガンガン言われて「何でも出てこい」って言われるのは嫌だけど、いまさらクラブを辞められないっていう狭間に立ってました。

その中で、子どもが言った言葉が「2年後に部活なくなるんですね」って言ったんですね。「飯田市の部

活は2年後になくなる」と、「えっ」っておそらくそれは親なり周りが言っている言葉なんですね。私は「えっ、なくならないと思うよ」って言ったんですけれども。

将来的にはもしかしたらなくなるのかもしれないですけども、数年後にはなくならないですよ。

だから、そのところを親にきちんとなくならないよと説明をしないとイケない。今の現状をやっぱり楽しむということに変わっていくんだよっていうことをきちんと説明が足りてない。地域においていってないっていうのをその子どもたちの話を聞いて思いました。

この「地域移行」っていう言葉が部活を地域に委ねるっていうふうに感じちゃうんですよ。全く新しいスポーツを飯田市として考えているんだよっていう前向きな発信になれば、また考え方が違うと思うんですよ。コロナを終えて、みんながいろんなものをいろんな部活、部活じゃないいろんなスポーツを楽しめる、そういうスポーツの会を始めるんだよってというような流れにしてほしいなと私は思います。

(委員)

すみません、私も委員と同じで、この新しい委員で先日、参加させてもらって、なんとなくとってつけたような名称で長ったらしいんでなんか良い名称にならないかなって思いますそれで双方になんか負担を感じるような、「部活動どうなっちゃうの」って、「地域でそれ担えるの」みたいな負担になりそうな文言になって、少し変えたら良いかなと思います。

ふと思い返して、私の中に若いとき、30代のときにドイツに3カ月ほどいたんです。シュトゥックガルドっていうポルシェの本社で3カ月間研修でいたんですけど、ドイツには部活動が一切ないんです。いじめの原因、上下関係だとか、精神論だとか、教練に当たる(部活動はない)。ナチスの反省もあって、戦後、部活動は完全に今なくなっている状態です。じゃあ、部活でスポーツやらないかっていうと、スポーツ人口ものすごく多いです。文化人口ものすごく多いです。仕事はギルドの制度ができていますので、5時半になるとぴったり終わります。6時にはロックアウトします。ポルシェの工場も。その後みんなスポーツだとかそういうところへ行きます。ジムは私も行くんですけど、大人と子どもが一緒にやっているんです。大人がしっかりレクチャーしながら、楽しんでやっている。でも、そこまで今すぐに移行できるか。日本はそういう姿になるのかっていうと、日本にそれは社会の受け皿がないかなというふうに見ています。お金も払わなきゃいけない。ほぼ、ドイツの子ども無償に近いです。さらに目指したい人たちはスポーツクラブへ入って、もっと高みを目指します。

ドイツよりも国民の中でスポーツをやる人口、文化の人口が大きいのはフィンランド。フィンランドも部活動がないです。ただ、その代わり社会の中にいっぱいスポーツやっているところがあって、子どもたちも一緒に受け入れてレクチャーする大人たちもいます。ほぼ無料です。会場も整備されています。さらに高みを目指す子たちには、強化できるようなちゃんとコーチが地域の中にいる。その体制までもっていけるのがやっぱり社会教育の分野になっているんですけど、まだまだそこまで日本の中にそういうものが根ざして

ない部分があります。目指してやっている人たちもちょっと偏りが、偏重が見えるような気がします。

どこに到達するかっていうものを見据えながら、どういうものを見据えながらできるのか。急場しのぎ、移行するときの子どもたちが一番犠牲になってはいけないんで、その部分を見ながら一番は受け入れる地域の中のスポーツとか、地域の中の文化・芸術、そういったものに勤しむような風土をつくらない限りは多分、完全に「部活」という名称が消えていかないだろうし、移行なんていうと地域移行なんていうと、真っ先に思ったのは公民館で「また講座を開かなきゃいけない」、「つくらなきゃいけない」、「どうしたら良いの」って。真っ先に公民館関係者みんな思っていると思います。「またやらなきゃいけないか、もう」とかって。

士気は高いんですけど、誰が教えるかとか、徐々に将来を見据えてここまできるといっているのをやりながら、ただ文科省は急いでいるみたいですので、そこの折り合いをつけながら良い名称が見つければなど、名称のことも言っていましたので、そんなふうに私は参加して思いました。

(座長)

事務局のほうで何か今のことに关してありましたらお願いします。

(氏原生涯学習・スポーツ課長補佐兼スポーツ振興係長)

名称につきましては、全国的にもそういったお話もいただいているようで、国のほうでも「地域連携」という言い方をしたりとか、「地域クラブ活動」という言い方に変ってきているということもございます。

実質はまだまだ部活動をそのまま移行しているようなところもあるかと思うんですけども、今、お2人の発言いただいたような将来的には大人も子どもも含めて、地域の中でいろんな多世代の人たちが交流しながら、そうしてそこで子どもたちの社会性が育んでいかれるというような、そんな姿を描いていきたいと思いますが、今、教えていただいたようにやっぱり時間がかかります。

先ほどの保護者の方や指導者の意識というのがなかなか変わっていかないということがございますので、ここは着実に粘り強くやりながら、中長期的なそういったもの、それから将来もしかしたら50年後、100年後にこんな姿になっているというような点を見据えて、その協議会の中でまずは皆さんの意見をいただきながら、取り組んでまいりたいと思っております。

(伊藤生涯学習・スポーツ課長)

名称については、少し迷いがあって、スタートが地域移行なので、その言葉を使ったほうが理解されるんじゃないかっていうところがありますけど、私たちも国の検討委員会が提言した提言書を見たときに、地域移行を止めてほしいと思いました。学校の休日の部活動はなくなります。新しい場所をつくりましょうが一番シンプルだと思いました。

あと先ほどの氏原から、保護者の理解が得られてないっていうところは、私たちも感じていて、今年の3月に教育委員会の情報誌に「部活動どうなるの」という記事をやりとりする形式で保護者、生徒に発信しておりますけれども、まだまだ十分理解がされてないと思っています。何十年続けてきた部活動を変えていく

第一歩だと思っていますので、こういった保護者や関わる指導者の皆さんへの情報っていうのは継続して出しながら取り組んでいきたいと思います。

(委員)

私も、女房が黒田人形を指導している立場で話させていただきますと、今、スポーツのほう为中心の話になっていますけれども、45 ページのところ「やりたいスポーツ・文化芸術活動に挑戦できる場づくりを進めていく」と上で太字でうたっておりながら、その下に「生涯にわたってスポーツに親しむこともその育むことにつながる」って、文化芸術はどこにいったらいいんだろうって、あげ足を取るわけじゃないんですけども、まだまだスポーツ優先の感がありまして、黒田人形どうやって指導しているかっていうと、水曜日という曜日を設定してそこでやっているというのが現状です。なぜかという、そこに職員会があるからと。職員会がある日は時間を早めて5時間にして、その水曜日だけはスポーツ部の子どもたちも黒田人形に入ることができるよっていうだけなんです。

いっぱいくるかなと思ったら水曜日は部活がない日、塾の日っていうふうに理解をして、そっちに流れていっちゃう子どもたちがほとんどだというふうな実情もあります。

そういう点で、文化芸術のほうもないがしろにしないでいただきたいというのが正直なところで、やはり文化芸術だって高いレベルのものを求めることだってできるでしょうし、どんどん先細りにならないようなことも考えていただきたい。「人形劇のまち」というふうにされている飯田市であれば、ぜひその辺にも光を当てていただきたいというふうに思います。

(委員)

私は、部活動の移行のほうは、伊那谷研究団体協議会の関係で出ていったんで、部活動でスポーツ一辺倒になってしまうと研究とか学術研究の分野どんどん疎かになっていっちゃうんじゃないかなと。昔は必修が圧倒的に文化芸術部門だったんですけど、そういうものが一切なくなって一辺倒になるのは、そういうのは危惧している部分があって参加をしてました。

ちなみにドイツでは、文化芸術の拠点は必ず図書館周辺です。そこを設備する。多分フィンランドも同じかなと。

戦前は飯田で生まれ育ったコスケンニエミがやって、戦後はオリペッカ・ヘイノネンが、それを受けて教育改革をしたときにそういう構造にしたので、多分図書館を中心にネウボラだとかそういったものも整えられているような気がします。まだ行って見てないんですけどね。先進地域のこのやり方を見ながら将来を目指したいというふうに思っております。

(座長)

まだまだいっぱいあるかと思いますが、時間ですのでこの辺で4番を閉じたいと思います。

(5)社会教育団体の登録推移について

(座長)

5番の社会教育関係団体の登録の推移について、事務局お願いします。

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長)

社会教育関係団体の登録の推移ということで、これは過去5年間のこの社会教育関係団体の数や会員数の推移を載せさせていただいております。

お時間の関係もごございますので、それぞれご確認いただければというふうに思いますけれど、大変多くの皆様に活動していただいておりますということはご確認いただけるかなと思います。

7 社会教育委員会議の活動についての意見交換・情報交換

(座長)

それでは時間もありませんので、7番目の社会教育委員会議の活動についての意見交換・情報交換ということで、時間もありませんが何かありましたらお願いします。

特になければ結構です。

(発言する者なし)

(座長)

それでは第1回から非常に白熱した議論がいっぱい出まして、ありがとうございました。

とにかくまた皆さんの忌憚のないご意見をいただいて、そして事務局とともどもその社会教育のほう発展させていきたいなということを思っています。よろしくお願いします。

それでは、座長のほうの進行はここまでということで降ろさせていただきます。

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長)

座長さん、大変進行のほうご協力いただきましてありがとうございました。

次第8番からは事務局のほうで進めさせていただきます。

8 教育委員会各課・館・所からの報告事項

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長)

次第をめぐった裏面、教育委員会各課・館・所から報告事項ということでございます。

今日お配りしたもの、また事前に送りしたものを含めて報告をさせていただきます。

文化財保護活用課のほうから順番にご説明をいたします。

(宮下文化財保護活用課長兼考古博物館長)

本日お配りしました、「飯田の古墳探検隊」という案内チラシでございます。

今週末、28日の日曜日ですけれども、昨年まで歴史探検隊として行っておりました事業ですが、考古博物館を飯田古墳群のガイダンス施設として充実させていくため、今年度から古墳探検隊として始めてまいります。

古墳の見方や、なんで飯田市にこんなに古墳があるのか、その理由など、実際に出土遺物や古墳を見させていただきながら、ご理解をいただく探検隊を、小学4年生以上を対象に行います。

20名の定員を超えるお申し込みをいただき手応えを感じまして、今後は秋の部の計画をしていきたいと思っております。

(牧内美術博物館副館長兼歴史研究所副所長)

3月もお配りしましたが、今回委員さんが新しくなられたということで、美術博物館と考古博物館の年間スケジュールをお配りさせていただきました。

真ん中を開いていただきたいんですけども、休館の関係ですが、博物館施設が出来上がってから35年経ちます。ちょうどロビーの天井部分の耐震補強工事を行わなければいけないということで、併せまして展示室等の照明器機と非常誘導灯につきましてもLED化の改修等を同時に行わせていただきます。このためここに書いてありますとおり10月16日から翌年3月8日まで休館をさせていただきます。

この間、柳田館、日夏館、またプラネタリウムも休館のためにご利用できませんのでご承知いただきたいことと、ただし、先ほど委員からありましたが、学校への出前講座とか公民館・各団体への講師派遣等は例年どおり行いますので、そのようなことでやっていきますので、ご承知いただきたいと思っております。

(上沼公民館副館長)

本日は委員の皆様のお手元に、令和4年度の飯田市公民館の活動記録を配布させていただきました。

飯田市公民館や各地区公民館が主催します学級講座の事業ですとか、各地区公民館の専門委員会が中心になって進めます事業等について記載させていただいております。

ボリュームが多いのですが、お時間があるときに、内容等をご確認いただくとありがたく思います。

(木村文化会館事業係長)

お手元に2つカラー刷りのものが行っております。一つがニュースレターと申しまして、文化会館整備検討委員会の検討状況を市民の皆さんにお知らせするものです。これで4号になります。

もう一つは「toi toi toi」というものでございますが、文化会館情報誌ということで、文化会館50歳を迎えました。現在建て替え計画における基本理念、基本構想を検討しておるところですが、文化会館をこんな具合で思いでやっているとか、こんな活動をやっています、こんな思いが込められていますというようなものをご紹介します。社会教育委員である森本委員のページもございます。ぜひご覧いただきたいと思っております。

(瀧本中央図書館長)

南信州図書館ネットワークのコンピュータシステム更新に伴う臨時休館についてです。

今年度 10 月1日に現在使っております図書館のコンピュータシステムの更新を予定しております。それに伴いまして、直前の約2週間、9月18日の月曜日から30日の土曜日まで図書館を臨時休館をさせていただきます。中央図書館、鼎図書館、上郷図書館、駅前図書館がお休みになります。各地区にあります分館は通常どおり開館をしております。それに伴いまして、インターネットからの蔵書の検索もできなくなります。また、美術博物館、歴史研究所、考古博の所蔵図書の検索もできなくなるということになりますので、ご承知おきいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

9 今後の日程

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長)

今年度見ていただいたとおりのスケジュールとなっております。6月にいくつか会議等が入っております。事前に資料をお送りした中にも関係する会議のご通知を入れさせていただいておりますので、ご覧下さい。また、本日追加でご案内させていただいてあるものもありますので、併せてご確認いただければと思います。

6月5日の飯伊の会議、これは正副座長さんご出席いただくものということでご確認をください。

6月14日の県の総会、このご案内は事前送付しました資料に同封してあります。塩尻の県の総合教育センターであります総会・講演会で、社会教育委員さんにご出席をお願いしたいというものであります。塩尻なので皆さん乗り合わせで行きたいと思っております。

本日お配りしました通知が、6月23日の飯伊の総会のご通知で、喬木村のほうで行う予定となっております。これについてもまた後日で結構でございます。ご出席のご連絡を頂戴できればと思います。

10 その他

(特になし)

11 閉会

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長)

今まで閉会後に社会教育委員さんたちの自主研究というものを行ってきた経過がございます。今後どのようにしていくのか、閉会後に皆さんでお話し合いができるの良いかなと思っておりますので、閉会後に座長さんの周りに少しお集まりいただけたらうれしいかなと思っております。

それでは、こちらのほうでご用意させていただきました本日の会議は以上ということになります。

大変お忙しい中、お集まりいただきまして、またボリュームがある資料でのご審議をいただきましてありがとうございました。2年間社会教育委員としてご協力をいただくわけでありますけれども、何卒よろしくお願いたします。

以上をもちまして、本日の第1回定例会を終了とさせていただきます。

大変お世話になりました。ありがとうございました。